

クレジット、ローンの魔力と魅力

東京都・世田谷区立千歳中学校 3年 高橋 菜央

私は「クレジットカード」が嫌いだ。父も母も、買い物はどちらかというと現金払いのほうだ。昔は、「クレジット」という言葉も一般的ではなく、月賦払い等と言っていたそうだ。まさしく、毎月の給料の中から、分割して払うということなのだろう。

なぜ、私が「クレジット」が嫌いかというと、結局、お金の支払いの「先延ばし」にすぎないのではないかと思うからだ。

現状「自分でお金を稼いだことがない者」として、お金の価値や感覚がまだ曖昧であり「稼げるという自信」がないことも起因しているのかもしれない。言い換えれば、将来の確証がないものに対して、自分自身が約束することに不安があるのだ。

また、借金取りに追われて、怖い思いをしたことのある人の話や、カード破産・自己破産のニュースを聞くと、そこには独特の「クレジット」や「ローン」の「魔力」が存在すると考えられる。この「魔力」とは、現時点で自分が保有する資力以上のものが、手に入ってしまうことであり、ともすれば、それを自身の「力」と錯覚してしまうことでもある。

人間は、弱いものだ。安易な考え、楽な方向になびく。父も、会社で経理の仕事をしているが、「お金は怖い、また魔物だ」とも言っている。実際、バブル期に多額の投資を行い、債務超過の末破綻した取引先、株式の信用取引にはまり家財を失った経営者、カード会社のブラックリストに載ってしまった多重債務者等々、身近なところで何人も見てきたようだ。またプロでも、その判断・運用・投資を誤れば、大変なことになると話していた。

私としては、自分自身が、収入を得るようにならなければ、またお金の使い方に自信がもてない間は、「クレジット」に頼ってはいけないと心に決めている。

しかし、私の事を別にすれば「クレジットカード」にも色々な側面があり、そのメリット・デメリットについては、考えておきたい。

現金払いの利点は、使用した金額をその場で支払う必要があるので、持っているお金以上のものは「必然的に買うことができない」つまり、分相応というか、無駄なものを買わないという理性が働くことだ。

一方「クレジット」は、支払いが先延ばしされるので、将来確実に収入が見込める場合には、必ずしもデメリットとは言えない。

でも、一度「クレジット」の味をおぼえると、結構はまりそうで怖いのも、また事実だ。

さらには、基本的に金利の上乗せがあり、結果としての支払い額が、現金支払いより多くなってしまふのが一般的である。ゼロ金利政策が、解除され、金利の上昇が予測される中で分割払いでもほとんど金利がかからないものであれば、その将来価値を現在価値に置き換えてみてのメリット・デメリットを、比較してみる必要があるのかもしれない。私のレベルでの買い物では、必要ないけれど……。

将来、車やマイホームの購入を検討する際には、絶対「身につけておかなければいけない知識」だと思う。

ただ、近頃の「クレジット」は、ポイント制度の併用等、消費者側にさまざまなメリットを特典として与えており、この「魅力」は捨てがたい。ポイントを貯めると、キャッシュ・バックがあったり、オリジナル商品を手に入れることや、それが限定品だったりすると希少価値も増し、消費者心理をくすぐってくる。節度ある消費者＝賢い消費者は、この制度を活用して、さまざまな恩恵を受け、むしろ得をしていると言える。

視点を変え、クレジット会社のメリットを考えてみる。やはり、各企業との提携によるお金のキックバック(手数料収入)が主な収入源の一つとなっていると思う。また、個人情報保護の問題はあるかもしれないが、その顧客名簿は企業にとっての財産であり、それを基に新たなビジネスを展開する事も可能だ。

また、クレジット会社に取り立てを依頼する会社側から見れば、多少の手数料は払っても回収リスクがないのは「魅力」に違いない。

クレジット会社にも、さまざまな形態があり、競争も激化している。ポイントによる消費者への還元も、将来の経営リスクになってきているとも聞く。ただ、企業として、そのような競争に打ち勝つために、今後も更なる工夫がされていくことだろう。

要は、使う側の心がけひとつだ。「クレジット」や「ローン」の、「魔力」と「魅力」という二面性を十分に理解したうえで、賢く活用し、生活の枠組みを広げている消費者や事業を拡大している経営者・企業も多い。

その意味からしても、一方が正解で他方が不正解だという趣旨のものではない。

ただ、借金は怖いという気持ちのほうが強いのが、現時点での私の偽りのない、心境である。